

東三河で  
未来の夢を語る

八町小学校イマージョン教育コース 保護者

20 白藤謙一さん

「チエンジ・メーカー」最大の候補者は地元で育った子どもたち



私は生まれも育ちも東京葛飾柴又の江戸っ子ですが、ご縁があって2013年から豊橋で暮らしています。地域を良くするには、「よそ者」「馬鹿者」「若者」のチカラが必要と言われますが、地元で育った子供たちこそが、「チエンジ・メーカー」に成りうる最も可能性を秘めた存在だと思います。

豊橋市では20年度より八町小学

校にてイマージョン教育コースが開始されました。一般的にイマージョン教育とは未習得の言語を身につける学習方法のことで、目標とする言語で教科を学び、その言語に浸りきった状態(イマージョン)での言語習得を目指すものです。豊橋版のイマージョン教育コースの授業では、文部科学省教育課程特例校の認可を受け、学習指導要領の内容(国語、道徳以外)

「Think Globally, Act Locally」

を、英語を用いて行っています。本コースの設置は、英語のコミュニケーション力を自分の長所として生かす、グローバル社会で活躍することのできる子どもを育成することを目的としており、世界にはばたく子の育成を目指しています。

我が家では小学6年生と3年生の2人の娘が昨年度から本コースに通学しています。娘たち自らが「英語を学ぶことは将来、社会に出て役立つから」と決断し、入級に至りました。私自身これまで、発展途上国の仕事や日本で食品や農産物の輸出入に携わってきた経験があるので、娘の考えに共感、賛同し、応援することにしました。

ただし、言語はあくまで手段であり、大事なのは話す中身とコンテンツだと思えます。自宅では出来るだけ読書の時間を設けたり、疑問や興味を持ったことについて調べたり、

本物を見に行ったり、人に会うように努めています。

また、入級後の嬉しい発見は、クラスメイトや先生方から毎日、沢山の刺激を受けていることです。クラスには帰国子女、外国籍、地元豊橋の児童が混在し、教える先生も日本人と外国人が2人1組でクラスマネジメントを行っています。ダイバーシティ(多様性)の環境の中、様々な価値観や考え方に触れられる日常は、娘たちの人間形成に大いに役立っていると感じます。

この先、デジタル化によるポータリティ化は一層加速し、柔軟性と対応力を兼ね備えた人間力が求められる時代だと思えます。八町小イマージョン教育コースで学ぶ子供たちには、豊橋を引っ張る人材になって欲しいと心から期待しています。

※次回10月4日付は、佐野医院元院長の佐野彰さんです。